

最期まで共に 在宅緩和ケア

尊厳死 公開講演会

平成30年(2018年)

日時 5月12日(土) 午後1時30分～3時40分(開場1時)

会場 仙台市福祉プラザ「ふれあいホール」

(地下鉄南北線「五橋」駅、南1番出口 徒歩3分)

仙台市青葉区五橋2-12-2 電話022-213-6237

人生の最終段階で希望の多い、在宅での緩和ケア。住み慣れた「わが家」で最期を過ごせるなら、こんないいことはありません。ただ、心配なのは様々な医療や十分な介護が受けられるかどうかです。

この在宅緩和ケア、介護保険を上手に使う「安らかな最期」を迎えるための支援をしているところが福島県会津地方・磐梯山のふもとの町にあります。不治で末期の状態になった時の医療や介護を、行政と医療チームが取り組んでいる姿は、多くの他の町でも役立つものと信じ、講演会を企画しました。

講演1 「`満足死`を目指して— チームで在宅緩和ケア」(60分)

小川医院在宅支援診療所・日本尊厳死協会東北支部理事

今田 かおる 氏



講演2 「生老病死に寄り添う— 傾聴から学んだこと」(40分)

臨床仏教師 楠 恭 信 氏



※ 会場からの質疑、応答

定員 300人 会員・一般 参加費 無料 どなたでもどうぞ

主催 一般財団法人 日本尊厳死協会東北支部

後援 宮城県医師会・仙台市医師会・河北新報社

協賛 東北大学実践宗教学寄付講座

問い合わせ先 日本尊厳死協会東北支部 電話022-217-0081 仙台市青葉区一番町1-12-39-703

【講師 紹介】

今田 かおる (こんた かおる)

医師・小川医院在宅支援診療所・日本尊厳死協会東北支部理事
「ばんだい地域包括ケアネットワーク」略称「ばんネット」会長

杏林大学医学部卒業後、小川医院医師、「マリアクリニック」院長。平成16（2004）年、老健施設「ケアテル猪苗代」・訪問看護ステーション「敬愛」を立ち上げる。平成18年、「在宅支援診療所」として在宅緩和ケアを開始。

「満足死」を目指して— チームで在宅緩和ケア」

平成12年に介護保険制度が始まって18年が過ぎました。高齢になり、自立した生活が難しくなってきた方は、現在では介護保険を利用することが当たり前になっています。

私は、平成3年から在宅への診療を行ってきていますが、この介護保険制度ができる前は、自宅に寝たきりの方が出ると、その介護をしている人は、旅行はもとより、買い物に行くことさえ、難しい時代でした。現在は、介護や医療保険をうまく利用して、介護の負担が少し軽減されています。ただ、その介護軽減のためには、その地域の介護と医療の連携がどの程度整っているかが、とても重要になります。

福島県会津の磐梯地域では、「ばんだい地域包括ケアネットワーク」という介護・医療の連携団体を平成27（2015）年12月に立ち上げ、できるだけ在宅で看取ることを推進実行しています。

今回は、高齢者やがんの終末期の方を、地域でどう支えるかを考えたいと思います。

楠 恭信 (くすのき きょうしん)

長照寺副住職 曹洞宗僧侶「ばんだい地域包括ケアネットワーク」副会長

静岡大学大学院卒。平成27年、（公財）全国青少年教化協議会より臨床仏教師の認定を受け、福島県立医科大学会津医療センターの緩和ケア病棟における傾聴活動や敬愛訪問看護ステーションのスタッフの一員として在宅での患者のケアにあたる。

「生老病死に寄り添う— 傾聴から学んだこと」

生老病死という誰もが避けて通ることができない根本的な苦に対して、宗教者がどのように関わられるのか。そう自らに問いながら臨床仏教師として歩み始めて3年。これまで、多くの方と出会い、吐露される思いに耳を傾けてきました。人生の締めくくりを目の前にした苦しみや葛藤、そして伝えたい思いに寄り添うことで見えてきたもの、そして、そこから得られた学びを振り返り、「自分らしく最期まで生きる」ことについて考えます。

第28回「仙台駅横 リビング・ウイル 交流サロン」

テーマ 「協会の新展開 — 会員のために、より親切に」

リビング・ウイルを補う「私の希望証明書」を中心に話し合い。

日程 4月20日（金）午後2時—3時半

会場 「せんだいアエル」6階特別会議室（JR仙台駅西口 徒歩3分）

お誘い合っ、どなたでもどうぞ。無料。 問い合わせは、東北支部に。